

小牧の屋根神様の現状について

1 現存する屋根神様

- ・片町 1 体
- ・上之町 2 体 (上組 1 体、下組 1 体)
- ・中町 2 体 (中組 1 体、下組 1 体)
- ・下之町 3 体 (上組 1 体、中組 1 体、下組 1 体)

計 8 体

最近消失したもの

七軒町 1 体 (矢田クリーニング店屋根上 → 小牧市に委託)

西町 2 体 (平和クリーニング店屋根上、小牧 4 丁目民家 → 神明社の秋葉社に合祀)

* 西町のものは、戦後になって新しく設置されたものである。

2 小牧市 (小牧宿) の屋根神様の意義

① 尾張に見られる屋根神様

名古屋市の屋根神様・・・昭和 40 年代には 400～500 体ほど見られたが、現在は 100 体？以下に激減している。 * 景観がビルやマンションなどに変化。地域で残そうとしている所は、古い寺や神社のすみに祠を設けて祀っている。

現在は、ふり街並みが残る西区 (四軒道ほか)、東区の建中寺山門前祠や筒井町など清須市の屋根神様・・・須ヶ口、西枇杷島など

* ほとんどが信長の清須時代の流れで、屋根神様で祀る神様が津島神社の牛頭天王であったことから、屋根神様に関する祭りは天王祭であり、時期も、名古屋市東区では 6 月に行われている。

② 小牧市の屋根神様

屋根神様に祀られている神様 (お札) は、最近に変化しているものの、秋葉神社・津島神社・熱田神社であったが、近年は、氏神様である小牧神明社のお札が祀られている。そしてメインとなるのが秋葉神社 (浜松市・春野町の秋葉神社、または袋井市の可睡斎の秋葉神社のお札) であり、祭りも秋葉祭である。つまり、江戸時代に火災に見舞われた小牧宿の人たちが、宿場を火災から守るため防火の神様＝秋葉様を屋根神様に祀ったことに起源をもつ秋葉祭に関係しているのである。

だから、小牧市にとっては、秋葉祭・四両の山車・屋根神をセットで誇りにすべきもので、未永く大切にしていかなければならないものと考えたい。

3 屋根神様・秋葉祭の現状と保存に向けての課題

① 最近では、屋根神様の保存については、個人で賄っているところはほとんどなく、屋根神様のある組ごとの町内の人たちや保存会の人たちの皆さんが協力してお世話しているのが普通である。

- ・片町の屋根神様 — 片町の個人宅の空き地に設置
- ・上之町上の屋根神様 — 上之町上組の路地を東に入った所の落合宅の右前角に設置
- ・上之町下の屋根神様 — 以前東春信用金庫の壁面にあったが東春が引っ越しビルの持

ち主が変わったのをきっかけに、八百金南側の広い駐車場の北東角に移された。

- ・中町中の屋根神様 — 昔から萬長商店の屋根に設置されている。
- ・中町下の屋根神様 — 近年は、仕出し屋の松澤屋さんの二階の前面にはめ込まれている
- ・下之町上の屋根神様 — 以前は、山田屋ふとん店北側の二階壁面に設置されていたが、山田屋さんのあとに入った方がお世話している。
屋根神様は壁面から下ろし、家の北側下に下ろし、やや高さのある位置に設置した。
- ・下之町中の屋根神様 — 昔から、岸田家の二階屋根部分に設置されている。
- ・下之町下の屋根神様 — かなり昔から下之町下組の南入口、暗渠になっている蓮台川すぐ前の組の共有地に馬頭観音などと一緒に設置している。

② 各町内の抱える課題

ア 萬長商店・岸田家の屋根神様

いつも提灯をつける際に、屋根神の前に木杵をつけて祭りを盛り上げているが、老朽化が進む中、堅固な屋根神様を存続させていくための補修・改修費用はどうなるのか？

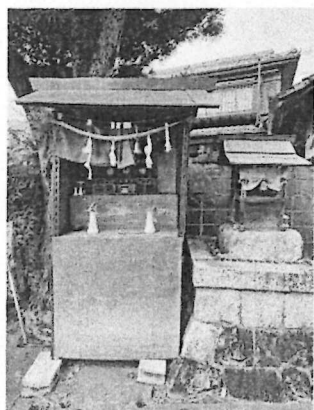
屋根神様の存続を考えると下に下ろすことが予想されるが、果たしてそれでよいのか？

イ 下之町下組の秋葉祭のお囃子の太鼓について

昨年の雨の影響でお囃子の太鼓が傷んだため補修しようとしたが、補修業者が調べたところ「この太鼓は江戸時代寛政年間の太鼓だから、修理して新しいもの改修するよりこのまま保管しておいた方が良いのでは？」と言われ悩んでいる。

ウ 秋葉神社のお札を受け取りに行くのに、以前は世話役の代表とか区長などが静岡県まで出かけていたが、近年は神明社の氏神様は頂いているが、秋葉神社までは行っていないらしい。受け取りに行く費用はどうするか？ etc

現存する屋根神様



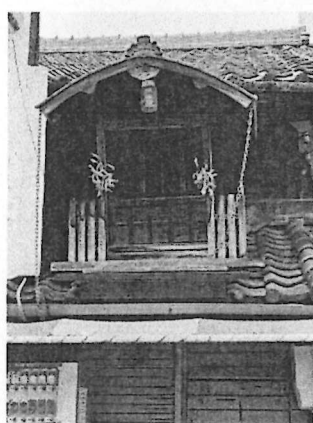
① 片町



② 上之町・上



③ 上之町・下



④ 中町・中



⑤ 中町・下



⑥ 下之町・上



⑦ 下之町・中



⑧ 下之町・下